

野鳥の「さえずり」と「聞きなし」

1. 用語の説明

用語	説明
さえずり	ソング(Song)。主に繁殖期に鳴く特別な節回しの鳴き声。一般的には主にオスが鳴く。タマシギはメスが鳴く。
地鳴き(じなき)	コール(Call)。固体同士の合図に使われる鳴き声。一般に「チツ」とか「ジャ」など地味な単音で、繁殖期・越冬期・オス・メス・成鳥・幼鳥の区別なく鳴く。
ぐぜり	完成されたさえずりとは異なり、つぶやきのように続けるはっきりしない鳴き声。地鳴きやさえずりの一部、時には他の鳥のまねを入れることもある。
ドラミング	(Drumming)。鳴き声ではなく、別の方法によって音を出す動作。キツツキ類では連続して木をたたき、ヤマドリなどは翼をふるわせて音をだす。
警戒音	外敵など危険の接近を、同種及び多種の鳥類に警告するための声。通常、非常に高い声で、聞こえる方向が分りにくい。アオジの「シー」という警戒音は野外で良く聞かれる。
ソングポスト	(Song post) さえずりをする鳥は、縄張りの内の目立つ場所(木の梢や杭など)にさえずりするための決まった場所を持つ場合がある。これをソングポストと呼ぶ。
聞きなし	野鳥のさえずりを、人の言葉に置き換えて、覚えやすくしたものが「聞きなし」である。意味のある短い文を当てて、まねるようにしたもので、鳥声の翻訳という人もある。「聞做(ききなし)」という呼称を用いたのは、鳥類研究家の川口孫次郎氏(1873~1937)が最初であるといわれる。日本野鳥の会の創設者である中西悟堂氏(1895~1984)は、「聞做し(ききなし)」と記している。

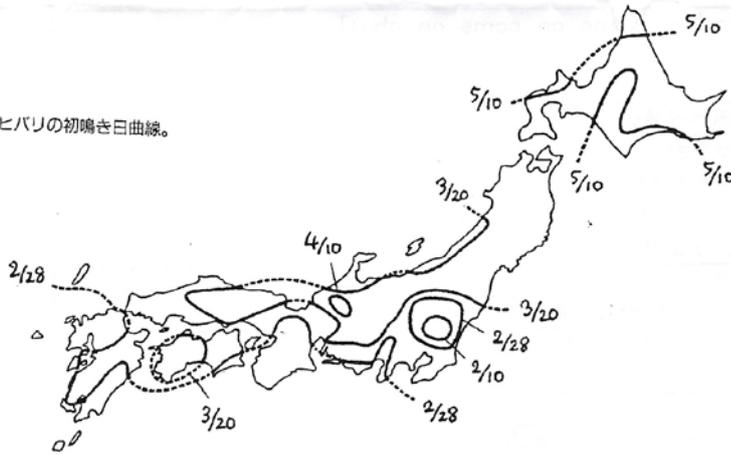
2. 「聞きなし」や「鳴き声」の例

鳥名	聞きなし & 鳴き声
アオジ (青鷗)	非常にゆったりしたテンポでチイチョ ビイリリ ビイリリ チョイチョ」とノジコよりもやや濁った感じでさえずる。たまにテンポの速い個体もいるが鈴のあるなしで判断すると良い(アオジは鈴がない)。
アカハラ (赤腹)	「キョロン、キョロン、チリリ」 「カモン、カモン、チュウー (come on come on chu)」 「競輪競輪でパー」
イカル (斑鳩)	「キーコーキー」 「お菊、二十四」「赤べべ着い」「みのかさ着い」
ウグイス (鶯)	「法法華経(ホーホケキョ)」「もう起きろ」 「リーカちゃん」「ミイちゃん」(自分を呼ぶ声)
エナガ (柄長)	さえずりは複雑「チーチー チリリ ジュリリ」細い声 地鳴きは「ジュリリリ チュリリリ」
オオヨシキリ (大葦切)	「ギョギョシ、ギョギョシ」 「行行シ・行行シ・ケケシ、ケケシ、親の乳チュウチュウ」
オオルリ (大瑠璃)	「ピーピーリリ ピーリ ポピーリ ピーリ オイーリ」と美しい声でさえずり、時々「ジェ ジェ」と地鳴きが入る。
カワラヒワ	「キリキリコロコロ」
カッコウ (郭公)	「カッコウ・カッコウ」(世界中どこでもほぼ同じ) 「Cuckoo(クックー)」(英名)「Kuckuck(クックク)」(ドイツ名)
キクイタダキ (菊戴)	細く低い声で「チィ チィ チリリリリ ピィチリリリリ」と複雑にさえずる。 周波数が高いので聞き取りにくい。
キビタキ (黄鶯)	「ピッコロロ ピッコロロ」調子がでると「オーシツクツク オーシツクツク」と連続的にさえずる。 「チョットコイ・チョットコイ・オーシンツク・オーシンツク」
クロジ (黒鷗)	「ホーイ チョイ チョイ (ホーイ チー チー)」の繰り返し。地鳴きは「キョッ キョッ」と単調で、飛びながらでも鳴く。
ホオジロ (頬白)	「一筆啓上、仕(つかまつ)り候(そうろう)」「源平ツツジ、白ツツジ」 「札幌ラーメン・味噌ラーメン」 「チョットねーチャン酒もってこい」
ヤマガラ (山雀)	「ツツピー ツツピー」とゆっくりさえずる。「ピーツツ ピーツツ」と逆転する場合もある。 地鳴きは「ニー ニー」(コガラよりも鼻にかかる)。

サンコウチョウ (三光鳥)	「ツキヒホシ、ホイホイホイ」 「月日星ホイホイホイ」 「年寄り、来い来い来い」
シジュウカラ (四十雀)	「ツツピーツツピー」「ツーピーツーピー」 「土地、金、欲しいよ (とち かね ほしいよ)」 「teacher teacher」
センダイムシクイ (仙台虫食)	「チヨチヨビー」 「焼酎一杯、グイー」 「鶴千代君～」 「疲れたビー」
ツバメ (燕)	「土食って虫食って、しぶーい」 「人ら米食うし、おいら虫食って口渋い」
ヒバリ (雲雀)	「ピーチク・ピーチク」 「日一步、日一步、日一步」は昇りのとき 「月二朱ウ、月二朱ウ、月二朱ウ」は降りの時 「一升貸して二斗取る、利(りい)取る利(りい)取る」



ヒバリの初鳴き日曲線。



ウグイスの初鳴き日曲線。

